

Member & Event

〈堀川まちづくりの会〉会員・イベント紹介 2018

黒川地区

2018年4月7日
黒川友禅流し 場所/辻栄橋(北区)
団体/北区まちづくり推進協議会(●黒川ドリーム会等)

四間道地区

2018年7月下旬
第63回円頓寺七夕祭り
場所/円頓寺商店街 団体/●円頓寺商店街振興組合

2018年11月
円頓寺秋のハリ祭2018
場所/円頓寺商店街 団体/●円頓寺商店街振興組合

その他

2018年4月21日
クリーン堀川春の一斉大そうじ
場所/北清水親水広場(黒川地区)宮の渡し公園(熱田地区)
団体/クリーン堀川(●●●)

2018年5月8日
春の小潮一斉調査 場所/堀川沿川
団体/●堀川1000人調査隊2010実行委員会

2018年6月上旬
環境デーなごや 堀川クルーズ
場所/白鳥~納屋橋、白鳥~名古屋港
団体/●名古屋堀川ライオンズクラブ

2018年6月3日
水フェスタ 場所/鍋屋上野浄水場
団体/●堀川1000人調査隊2010実行委員会

2018年9月上旬
第23回調査隊報告会 場所/名古屋都市センター
団体/●堀川1000人調査隊2010実行委員会

2018年9月15日
クリーン堀川秋の一斉大そうじ
場所/北清水親水広場(黒川地区)納屋橋周辺(納屋橋地区)
宮の渡し公園(熱田地区)
団体/クリーン堀川(●●●)

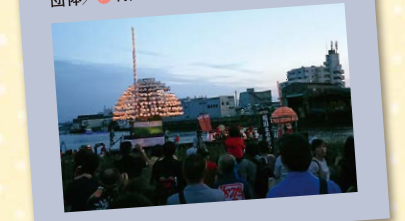
2018年9月頃
環境デーなごや ブース出展
場所/久屋大通公園
団体/●名古屋堀川ライオンズクラブ、
●鯉城・堀川と生活を考える会

2018年11月
鯉城・堀川清掃大作戦 場所/堀川・新堀川全川
団体/●鯉城・堀川と生活を考える会

2019年2月(予定)
第24回調査隊報告会 場所/未定
団体/●堀川1000人調査隊2010実行委員会

イベントピックアップ!

2018年6月2日・3日
堀川まつり 場所/宮の渡し公園
団体/●NPO法人堀川まちネット



海の日名古屋みなと祭

堀川口地区

名古屋港管理組合 19

- 21 中部大学 松尾直規教授(堀川まちづくりの会会長)
- 22 名古屋工業大学 秀島栄三教授
- 23 名古屋市立大学 瀧口哲夫名誉教授
- 24 愛知淑徳大学(コミュニティ・コラボレーションセンター)

納屋橋地区

イベントピックアップ!

2018年5月11日~26日
堀川フラワーフェスティバル
場所/納屋橋周辺
団体/堀川フラワーフェスティバル実行委員会
(●●●●●●●●●●等)



フラワーフェスティバル内イベント

- ◆4月12日~16日
ハンギングバスケット作成会
団体/●名古屋市長政土木局河川計画課
- ◆5月11日
開会式&レトロ納屋橋 Gondラウエディング
団体/●NPO法人 Gondラと堀川水辺を守る会
- ◆5月12日(雨天予備日13日)
愛知淑徳大学Day
団体/●愛知淑徳大学コミュニティコラボレーションセンター
- ◆5月19日
堀川水質検査デモ
団体/●鯉城・堀川と生活を考える会
- ◆5月12日・13日・19日・20日・26日
Gondラ体験乗船
団体/●NPO法人 Gondラと堀川水辺を守る会
※Gondラ体験乗船は3月~11月の毎月最終土曜日曜にも開催しています。

2018年4月7日
福島正則ベンチ除幕式
場所/納屋橋 団体/●名古屋堀川ライオンズクラブ

2018年8月26日
第14回堀川エコロボットコンテスト
場所/納屋橋
団体/●名古屋堀川ライオンズクラブ、●名古屋工業大学

2018年秋頃
堀川ウォーターマジックフェスティバル
場所/納屋橋周辺
団体/堀川ウォーターマジックフェスティバル
実行委員会(●●●●●●●●等)

2018年10月28日
第43回堀川文化講座
~幕末・明治の徳川慶勝公(仮題)~
場所/中区役所6F大会議室 団体/●堀川文化を伝える会

熱田地区

2018年10月28日・11月11日・18日
東海道七里の渡し船旅学習会
場所/熱田「宮の渡し」-桑名「七里の渡し」
団体/●NPO法人堀川まちネット

堀川口地区

2018年7月16日
第72回海の日名古屋みなと祭
場所/名古屋港ガーデンふ頭一体
団体/主催:海の日名古屋みなと祭協賛会
事務局:●名古屋港管理組合



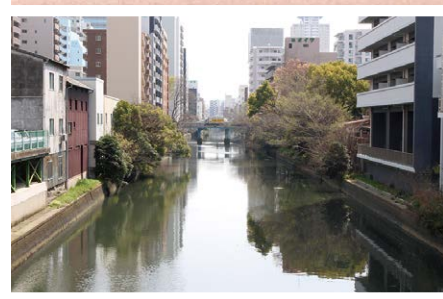
いつも心に川がある

堀川まちづくりの会 機関誌

ワカリホ

vol.7

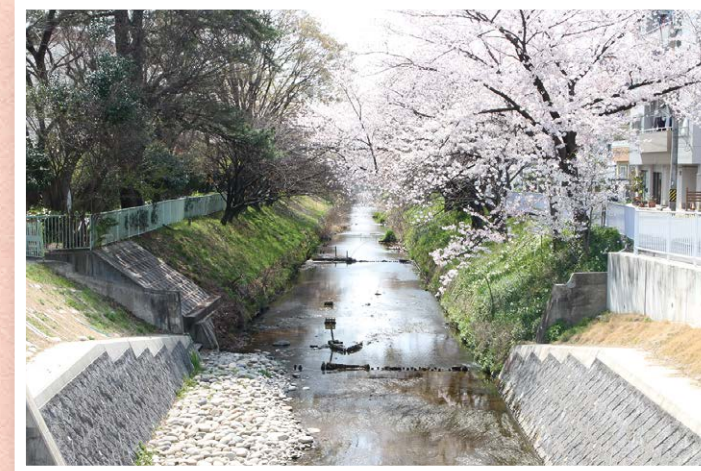
Wakariko 2018 April



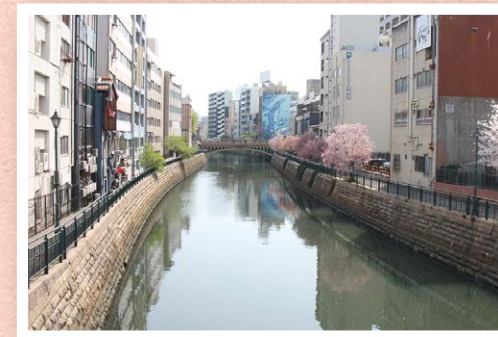
③五条橋から下流を望む



②中土戸橋から下流を望む



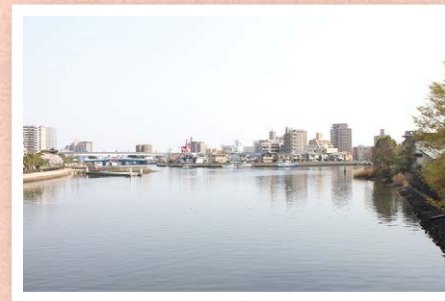
①夫婦橋から下流を望む



④錦橋から下流を望む



⑤松重橋から下流を望む



⑥大瀬子橋から下流を望む



⑦港新橋から下流を望む

どの橋から見た風景かわかる人はかなりの堀川通ね



堀川には全部で58の橋があるんだニヤン

編集後記



昨年は秋をあまり実感できないうちに寒い冬になりましたが、今年は春が駆け足でやって来ていつもより早い桜の開花にお花見の予定を大幅に繰り上げるなど、何か季節に振り回されているような気分です。とは言え、これから堀川でも色々なイベントが用意され、皆さんにもお楽しみ頂けるといいます。ワカリホも次号からは誌面を刷新、新企画でお届けする予定です。「こんなニュースを届けてほしい」とか、「堀川について、こんなことを知りたい」など、皆さまご意見・ご要望を沢山お寄せ下さい。

堀川まちづくりの会事務局

公式サイト

horimachi.jp



ワカリホのバックナンバーも掲載!



活動日記ブログ

horimachi.blog.fc2.com



フェイスブック

www.facebook.com/horimachi



堀川の今、そして未来、歴史など、堀川のイロイロや、アレコレなど、「ともかく堀川を知っておきたい」という方は、一度アクセスしてみてください。



黒川さんのビッグなスケールにビックリ

黒川治憲さま、あなたの名前が付いた黒川の開削は、実はあなたの壮大な計画のほんの一部だったんですね。明治維新という大転換期を駆け抜け、日本の近代化を推進した人たちのスケールの大きさに、改めて感動しています。

黒川治憲
明治時代、愛知県技師として多くの土木・治水事業に関わった人物



木曾川と名古屋を結ぶビッグプロジェクト

当時、名古屋北部と飛騨や信濃地域を結ぶ大量輸送路といえば、木曾川を下って桑名に出、そこから伊勢湾を横断、熱田港から堀川を上って名古屋に至るという大回りなルートしかなく、大変な時間と費用が掛かっていました。そのため、木曾川と名古屋を直接結ぶ舟運路を開発することは、名古屋の発展に欠かせない一大プロジェクトであると考えられていました。これを成し遂げたのが、黒川治憲さんです。黒川さんが計画したのは、木曾川から木津用水（こつづみづ）を通って新木津用水に入り、庄内川に入るルートです。庄内川から先は「庄内川分水工事」として開削される黒川を通して、堀川に入ります。そして黒川さんは、このルートを確保するため以下の3つの具体策を提言しました。

1. 新木津用水を拡幅して、沿川で利用できる水量を増やす。これを農業用水に役立てるとともに、船が名古屋まで来られるようにする。
2. 新木津用水の流末にある八田川の水を取水して、堀川へ流れ込む新しい水路（黒川）を開削する。これにより、新木津用水を下ってきた船が堀川まで通航できるだけの水量を確保する。
3. 庄内用水路を付け替え、木曾川からの水も一緒に取水できるこの新しい水路から分派させることで、水量の増大を図る。



木曾川と木津用水(手前)



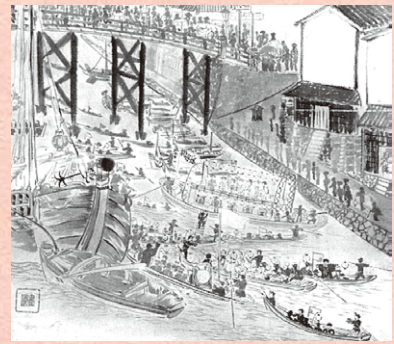
新木津用水と八田川の合流点(春日井市朝宮町)



木津用水から新木津用水に分かれる分流点(大口町)

完成から2年後、犬山と名古屋を結ぶ船が就航

明治17年(1884)5月、用水路の拡幅などの工事はすべて完了しましたが、船が通航されることはありませんでした。農業用水と舟運との調整が必要とされたからです。明治19年ようやくこれらの調整が図られ、県の許可を得た愛船会社の開業式が犬山の木津用水元口(取水口)前で行われました。式典が終わると数十隻の船に来賓が乗り込み、木津用水から新木津用水に入り、庄内川へと下って行きました。さらに、船は庄内川を横断して庄内用水へ入り、一番の難所と言われる矢田川の伏越(水路トンネル)を経て辻村(現北区辻町)に出、黒川を南西に下ってお城の北から西を経て納屋橋に到着しました。ここで船を下りて、西岸にある得月楼(後の鳥久)で祝宴を張ったと記録されています。



木津川通航式図説 納屋橋での祝宴 (清流亭蔵)



木曾川と熱田をつなぐ航路(点線)

黒川治憲さま、現在は船が通航することもなくなりましたが、新木津用水の拡幅などによってこの地が潤い、今でも豊かな田園風景が広がっています。私たちがあなたが成し遂げたことを励みに、堀川が市民の皆さんに愛される川にしていきたいと考えています。

堀川の歴史をたどれば名古屋の歴史もよくわかるニヤン



黒川治憲さま

＜NANI＞

はるよし

さま

昔の人って、
何でこんなにスケールの大きなことができたんだろう。
わたしたちも、
見習わなくちゃね。



ホリバーちゃん

Town

堀川の街ガイド⑦

日置・松重地区

堀川七橋時代の名前を残す現代の3橋など、
地区に息づく歴史、伝説、景観を訪ねる。

堀川の街ガイドは、堀川沿いに展開するそれぞれの街の魅力や、楽しみ方をご紹介する便利な手引きです。
「堀川の川べりをちょっと歩いてみようかな」と思ったら、ぜひ持って行ってください。

花の名所だった日置橋、 商店街の中にあるお寺の伝説



花見客で賑わう日置橋界隈(桜見と春之日置)
名古屋博物館蔵



桜の名所だったんだね!



日置橋



西日置商店街



河童伝説の残る鹽竈(しおがま)神社



汗かき地藏

日置・松重地区



日置・松重地区の中には、堀川開削当時架けられた堀川七橋のうちの日置橋、古渡橋、尾頭橋の3橋があり、現在も使われています。中でも日置橋は、江戸時代後期ごろから桜の名所となったことは、ご存知の通り(ワカリホ3号を読んでください)。今ではその面影もありませんが、近年は桜の植樹も行われました。やがては昔のような風景が甦るかもしれません。

その日置橋を東から西に渡ると、西日置商店街。通りの北側にはお寺や神社(鹽竈神社)もあり、普通の商店街とは少し違った落ち着いた雰囲気を感じられます。今はビルに建て替えられた観永寺の裏には、「汗かき地藏」と呼ばれて信仰を集める有難いお地藏さまが今も祀られています。伝説によれば、昔、堀川の中に落ちていたお地藏を見つけた人が拾い上げ、観永寺に持って行って祀ってくれるようお願いしたところ、当時の住職であった諦善尼が快く引き受けたと言います。その年は日照りや疫病が流行ったので、村人がそのお地藏さまに一心に祈っていたら、お地藏様の額から汗が吹き出し、やがて雨が降り始め、村はこれで救われたというのです。

西洋建築にも似た 名古屋の近代化遺産、松重開門

日置橋と山王橋の間にあるのが松重橋で、橋からは巨大な松重開門を見ることができます。開門とは、船を水位の違う河川や水路などに通すための施設で、入ってきた船を開門に入れ、開門内に出て行く側の水位に合わせて、通航を可能とするものです。松重開門は、中川運河と堀川を通航させるために昭和初期に造られたが、陸上輸送の発達によって昭和43年(1968)に閉鎖されました。その後も、名古屋の発展を記念する遺構として市の有形文化財に指定するなど大切に保存され、周囲は小公園として整備されています。夜間にはライトアップされ、その幻想的なたたずまいに「名古屋のロンドン塔」と呼ぶ人もいます。



松重橋と松重開門



ライトアップされる松重開門

日本で2番目に古い 銅製アーチ橋の岩井橋

日置橋の上流に架かる岩井橋は、大正12年(1923)9月に竣工されたもので、現存する銅製アーチ橋としては大阪の本町橋について2番目に古く、唯一、戦前の飾り板が残っています。また、松重橋から尾頭橋にかけての堀川の東側には、数々の歴史的な名残を訪ねることができます。

まずは、古墳時代の正木町遺跡と尾張元興寺址、江戸時代なら名古屋で最古の芝居小屋であった橋座があったことから残されている「名古屋芝居濫觴址」などがあります。明治時代には、文豪 二葉亭四迷が子供時代を過ごした「幼年時代住居址」と、探ればもつと色々な時代にタイムトリップする場所を巡ることができるはずですよ。



岩井橋



尾頭橋